

# 令和2年 新年のごあいさつ



洞爺湖町議会議長

大西 智



洞爺湖町長

真屋 敏春

**新**年明けましておめでとうございます。  
皆さまには、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨今は、毎年のように台風による暴風・大雨などの予想を超えた自然災害が発生しています。

一昨年9月に発生した北海道胆振東部地震では、北海道全域が停電となり、今までに経験したことが無い問題にも直面し、新たな備えの必要性も浮かんできました。

当町は、今年で2000年の有珠山噴火から20年を迎えます。町では有珠山噴火や津波を想定した避難訓練を毎年実施するなど、災害時に備えた取り組みを行っていますが、防災に対する日ごろからの意識が大切となっています。

さて、地方においては、大都市圏への若者の流出により過疎化・少子高齢化が進み地域の活力が減退しています。当町においても、合併時には約11,000人ほどの人口でしたが、現在は8,700人ほどと2,000人以上も減少し、人口減少による労働力不足が町内の基幹産業へ影響を与えています。洞爺湖町の持っている素晴らしい素材を活かした各産業の魅力の向上を図り、その発信などの取り組みを更に進めて行くことが、重要になってきていると感じています。

議会においては、昨年4月の改選から議員定数が2人減り12人となりましたが、議会のさまざまな活動を通じて、町民の意見が反映されるよう積極的に取り組んで参りますので、町民の皆さまのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本年が、町民皆さまにとってよい年となりますようにお祈り申し上げますとともに、皆さまのご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。

**明**けましておめでとうございます。  
町民の皆さまにおかれましては穏やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また日頃行政へのご支援、ご協力に対し、深く感謝申し上げます。

昨年の5月に元号が「令和」に変わり、新たな時代がスタートしました。昨年を振り返りますと、町では4月に洞爺メモリアル公園のオープン、洞爺保育所の新規施設での通所の開始、7月には洞爺湖町の入江・高砂貝塚を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産候補に正式決定されるなど、明るいニュースが多くありました。

今年の重点事業としましては、昨年に引き続き道路・交通網の整備を進めていくほか、アイヌ新法施行に伴う新たな交付金制度を活用した地域振興策を進め、JR洞爺駅構内のエレベーター整備についても、一歩ずつ前進しております。

観光関連では、今年は洞爺湖中島にあります「洞爺湖森林博物館」の建替工事を計画しており、施設内では洞爺湖有珠山ジオパークの紹介をすると共に、中島の豊かな自然をゆっくりと楽しむことができるような場所になりますよう、来春のオープンに向けて準備してまいります。

今年の3月には2000年有珠山噴火から20年を迎えることから、噴火災害の経験と教訓を風化させることなく次世代に引き継ぐため、有珠山噴火防災訓練を計画し、噴火をはじめとする大規模な自然災害などに備えるため、強靱なまちづくりの推進として「国土強靱化計画」の策定に取り組んでまいります。

最後になりますが、皆さまが、健やかで、明るい希望に満ちた1年となりますようご祈念申し上げます、年頭のごあいさつといたします。